

館報 教育記念館

No. 106

令和8年3月 発行

第16回 児童・生徒による ものづくり展 10月17日(金)～11月9日(日)



主な内容

- ◎恒例展 「児童・生徒によるものづくり展」 1
- ◎教育時評 私と私の頭の中 株式会社 青木工業所 代表取締役 青木啓明 2
- ◎後期恒例展等から
「児童・生徒によるものづくり展」「富山県造形教育作品展」「富山県中学校美術展」
「アイデアロボット展」「高校生ものづくりフェスタ」「ロボットづくり教室」 4
- ◎わが校の歴史から 5
- 上・上市中央小学校 上・陽南小学校 上・白萩西部小学校 富・水橋西部小学校
富・水橋中部小学校 富・水橋東部小学校 富・三成小学校 富・水橋中学校
富・三成中学校 富・浜黒崎小学校 富・古里小学校 富・音川小学校
南・上平小学校 南・平中学校
- ◎学校情報閲覧コーナー「県内の学校の今」紹介 9
- ◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 10
- 令和8年度の展示計画 あとがき



発行所／公益財団法人 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp https://www.t-hito.or.jp
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎ (076) 433-2770)
発行人／富山県教育記念館 館長 廣瀬 敬一 印刷所／いおざき印刷株式会社



私と私の頭の中

株式会社 青木工業所

代表取締役 青木 啓明

この度、(公財) 富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館様の館報「教育記念館」の巻頭言の執筆の依頼を受け、大変恐縮すると共に、配布先が多岐にわたり、一体何について書けばいいのだろうかと大変悩みました。悩んだ結果、答えが出なかったのご依頼時の「自由に書いてください」の言葉を信じて、自分のことを自由に書きたいと思います。

私は昭和51年富山市生まれ、国立富山工業高等専門学校 機械工学科を卒業して社会人の一員となりました。当時は学校に来る求人情報には目もくれず、自分の好きだったチューニングカー雑誌に載っているメーカーに片っ端から手紙を出し、返信が来た中から1社だけ入社試験を受けに行き、受かったのでそのまま群馬県にあったそのメーカーに就職しました。

その会社では市販車用のサスペンションキットの開発に携わると同時に、会社から出場していた全日本ラリー選手権にチームエンジニアとして参加していました。ラリーという競技は封鎖した一般道をいかに速く走るかなどを競う競技で、狭い道をものすごいスピードで走るので、競技中にぶついたりして車を壊しながらサービス拠点（メンテナンスをする会場）に帰って来ます。次の競技区間でも速く走る為になるべく元の状態に直さなければいけないのですが、サービスの時間も決まっていて（超過するとペナルティ）、その時間内にいかに元の状態に近づけられるかがメカニック、エンジニアに課せられた課題とも言えます。メカニック達は車の状態とどの作業なら時間内に終わるかを瞬時に判断して作業に取り掛かり、瞬く間に車を最高の状態に近づけて送り出します。私もエンジニアとして指示を出しつつ作業にも参加していたのですが、事前のシミュレーションと自身の能力の把握、時間内に可能な作業を理路整然と考えていく姿などは大変勉強になり今も私の中に根付いている考えだと思っています。

30歳になり、父の死などもあり富山に帰って来ました。帰ってくるならば伯父が代表、伯母が経理、そして父が設計者として従事していた会社を手伝おうということで今の会社に入りました。前の会社では手で持てる程度の車の部品の設計しかしたことがなかったですが、

今の会社では工場などの自動生産設備を設計・製作しており、20～30mほどの長さの生産ラインなどを部品一つ一つから設計していかなければならず、その違いに大変苦労しました。また自身で設計する部品だけではなく、モーターやセンサーなど購入してきて取り付ける部品也多岐にわたり、覚えるのにも大変でした。まだまだ覚えていかなければいけないことは多くありますが、ある程度の知識と経験ができた今では、世の中のものを見るときに、どのような構造になっているのか、どんな仕組みで動いているのかなどを常に考えるようになりました。また、「今までと同じ」が嫌いな性格で、いつも別の方法がないかを考え続けています。トイレの個室に座っている時も、入口のドアにカギをかける方法をいくつも考えていたりしています。常に色々なことを考え続けることによって、いろんなアイディアがふと浮かんできたりすると思っています。

どんな仕事でも学生時代に勉強したことがそのまま使えた、役に立ったということはほとんどなかったと思います。学生時代に勉強したことは引き出しに見出しを付けた程度で、引き出しの中身は社会人になってから少しずつ勉強して埋めていったという印象です。ただ見出しのない真っさらな引き出しよりは見出しのついた引き出しの方が取っ付き易いので、学生時代にしっかり勉強しておくことも重要だと思います。息子たちや縁があって話す機会があった若者には伝えていきたいと思っています。

弊社は今年で創立60周年を迎えます。世の中をより便利にするために、柔軟な発想とそれを実現する技術で社会に貢献して参りますので今後ともよろしくお願い致します。



株式会社青木工業所 工場内



全日本ラリー2006in赤井川(北海道) 優勝



後期恒例展



第16回 児童・生徒によるものづくり展 10月17日(金)～11月9日(日)

小・中・義務教育学校・特別支援学校・高等学校44校、207名の児童生徒が制作した210点の作品を展示しました。



第21回 アイデアロボット展 12月6日(土)～1月11日(日)

中学校、高等学校、高等専門学校の13校（1クラブ含む）から18点のロボットを展示しました。



第56回 富山県造形教育作品展 11月15日(土)～11月30日(日)

幼稚園、認定こども園、小・中学校、義務教育学校、高等学校の園児児童生徒が制作した337点の作品を展示しました。



関連企画 令和7年度 高校生ものづくりフェスタ 9月21日(日) 10:00～15:00

富山駅構内で行いました。県内5校の工業高校・各学科のものづくりの魅力に多くの人が触れました。



第36回 富山県中学校美術展 1月16日(金)～2月8日(日)

県内77校の中学生が日頃の学習や部活動で制作した絵画や造形作品189点を展示しました。



関連企画 令和7年度 ロボットづくり教室 1月11日(日) 場所:教育記念館 5F 大会議室

小学生4～6年生18名が中学校の技術・家庭科の先生方の指導のもと、サッカーロボットを製作し、対戦を楽しみました。



わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「上市町立上市中央小学校」へ

上市町立上市中央小学校



いいとこいっぱい のびのび育つ

ちゅうおうっ子(合言葉)

昭和33年9月30日、上市小学校と音杉小学校の統合により、県内で初めて校名に「中央」を冠した、上市中央小学校が創校されました。児童数1,751名の大規模校として歩み出しました。今年度は、284名の中央っ子が在籍しています。

雄大な剱岳を望む自然豊かな校区で、地域の方々との体験活動や学びの場を大切にして子供たちの成長を支えています。平成12年に校舎に併設された生きがいデイサービス「おたっしや家」のお年寄りとの交流活動も本校の特色です。

令和8年度より、本校と白萩西部小学校、陽南小学校の3校が統合し上市中央小学校の新たな歴史が始まります。今年度、新しい学校創りに向けて、多様な3校交流活動を進めました。この節目が子供たちにとって、よさや持ち味を生かし育ち続ける契機となることを願っています。

上市町立陽南小学校



太陽のように

大岩小学校と柿沢小学校が統合し、昭和58年4月に陽南小学校として開校しました。校名には、太陽のように明るくたくましい子供に育ってほしいという願いが込められています。校舎の中央にそびえ立つ「カリヨンの鐘」の塔は、本校の自慢です。校歌に「陽南の鐘 ひびく園 心に太陽 火と燃える」とうたわれており、子供たちは朝夕に鳴る鐘の音を聴きながら、「太陽の子」を目指して学習や運動に励んでいます。

三代交流活動や公民館と連携した運動会、福祉施設でのボランティア等の地域と関わる体験活動と、縦割り班活動やランチルームでの全校給食等の異学年交流活動を通して、子供たちは地域の人の温かさや多様な人となりが合うことの楽しさと喜び、大切さを感じてきました。

令和8年度より白萩西部小学校、上市中央小学校と統合します。大勢の新たな仲間との出会いを楽しみ、互いに磨き合いながら、太陽のように明るく力強く、前へ進んでいってくれることを願っています。

上市町立白萩西部小学校



未来へつなぐ150年の歴史

本校は明治9年、「興原小学校」として開校しました。以来150年にわたり、校名変更や校舎移転等の変遷を経ながらも、地域に根ざした学校として、地域住民に愛され、多くの優れた人材を輩出してきました。

特色ある活動として、地域の公民館と連携し、学年に応じた内容で行う「地域ふれあい交流学習」があります。学校の運営計画や学年の指導計画に位置付け、地域の「ひと」「もの」「こと」と関わりながら学ぶ貴重な機会となっています。また、少人数を生かした縦割り班活動も盛んで、「子供発」の主体的な取組を通して、思いやりの心や粘り強く鍛え合う心が育まれています。

令和8年度には、陽南小学校とともに上市中央小学校へ統合されますが、これまで大切にしてきた「ふるさとで心豊かにたくましく、進んで学ぶ」精神を胸に、新たな一歩を踏み出し、新しい歴史を紡いでいってほしいと願っています。

上市町立白萩南部小学校 (1997年～休校 新上市町誌 2005.9.30) 閉校

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「富山市立義務教育学校 水橋学園」へ

富山市立水橋西部小学校 建学の精神「有隣」はいつまでも



本校は、明治11年に西水橋小学校として創立されました。創立当初は「有隣小学校」と呼称されていたこともあり、「有隣」の精神(徳を行う者は孤立せず、必ず共鳴者が現れる)は、以来147年間、閉校を迎える今年度まで受け継がれてきました。校歌にもこの精神が込められています。

今年度は、学校に関わる全ての人が特別な年であることを意識し、日々をくらししてきました。閉校記念行事やイベントが大小たくさん行われました。誰か(子ども、職員、地域、保護者)が閉校を意識して「やろう」と言った取組は、やがて共鳴者が現れ、全て価値あるものとなりました。まさしく「有隣」の精神を感じ続けた1年間でした。

ある行事で、本校縁の三世代が校歌を歌いました。校歌後、会場にはしばらく沈黙が流れました。言葉にできない閉校への思いを、集う者皆が噛みしめているようでした。このとき、私は、「有隣」の精神はいつまでも私たちの心の中で生き続けていくに違いないと思いました。

富山市立水橋中部小学校 「大成の心」を大切に 新たな歩みを



本校は明治6年に開校し、同8年に「立派な人物に」との願いから「大成小学校」と名付けられました。昭和41年に水橋中部小学校と改称後も、153年の長きにわたり「大成の心」を礎に歴史を刻んできました。

水橋地区の中心に位置する本校は、伝統行事「水橋橋まつり」に見守られ、温かな地域と共にありました。校内では「ファミリー活動」を通じ、学年を超えた絆や思いやりの心を育んできました。また、郷土の偉人・角川源義氏が作詞した校歌には、高い理想を掲げて「大成の道」を進む子供たちへのエールが込められています。この歌声は、閉校後も卒業生の心に響き続けることでしょう。

4月からは「義務教育学校 水橋学園」として新たな歩みを始めます。学び舎は変わりますが、育んできた「大成の心」を大切に、新しい仲間と輝かしい未来を切り拓いていくことを願っています。

富山市立水橋東部小学校 地域への誇りをもち 新たな歩みを



本校は、明治6年下砂子坂小学校として開校し、幾多の改称や改築等の変遷を経て153年の歴史に幕を下ろします。

令和7年度は、異学年交流による学び合いや人間関係づくりを中心として、教育活動を推進してきました。本校の伝統行事なわとび発表会は、子供たちが演技構成を考えつくり上げました。地域から学ぶ「水橋学」では、「田の生き物」「米作り」「店」「コミュニティバス」「保育所」「閉校記念フェスティバル」を教材として課題を探究し、地域の方々の思いや願い、生き方に触れ、地域のすてきを見付けました。地域との関わりから、子供たちは将来の地域の姿や自己の生き方を思い描くとともに、地域を誇りに感じています。

令和8年4月、本校は水橋地区の小中学校が統合し義務教育学校水橋学園として歩み出します。今後も、地域に愛着と誇りをもち、新しい仲間とともに新たな歴史と伝統をつくり上げてほしいと願っています。

富山市立三成小学校



地域に支えられ、愛されて育つ三成っ子

本校は、明治6年開校の新堀小学校・一田中村小学校と明治7年開校の二ツ屋小学校・沖小学校が原点である「三郷小学校」と、同じく明治6年開校の良智小学校が原点である「上条小学校」とが、令和4年4月に先行統合し、平成27年に完成した三郷小学校の校舎を活用して開校しました。両校の長い歴史を受け継いでおり、令和5年には「150周年記念式典」を催しました。

三成っ子は、農業体験学習「田んぼの学校」、富山市で最優秀賞(R7)に輝いた「花壇づくり」、県警音楽隊の特別演奏を聴くことも魅力的な「交通安全標語づくり」(啓発活動)、学童疎開の縁から姉妹校となった品川区立豊葉の杜学園との交流学習等、地域の皆様に支えられ、愛されて学校生活を送ってきました。

令和8年4月、本校を含めた水橋地区4小(5小)・2中学校が統合し、令和4年3月末に閉校した県立水橋高等学校の跡地に、富山市初の義務教育学校「水橋学園」として、新たな歴史を紡いでいきます。

富山市立水橋中学校



好きです 水橋中学校

本校は、昭和22年「水橋町立水橋中学校」として開校しました。昭和41年には水橋町の富山市編入により、「富山市立水橋中学校」と改称しました。創立から79年という月日が流れ、多くの卒業生が学び舎を巣立ち、それぞれの場所で活躍しています。校区は、北に富山湾を東には立山連峰を望むことができる自然豊かな環境にあります。春には白岩川の堤に植えられた桜が私たちの心を和ませてくれます。

生徒玄関の石碑には、「好きです 水橋中学校」と書かれています。「自分も大切、相手も大切」、思いやりあふれる水橋中学校になるよう教育活動に取り組んでいます。また、地域について探究する「水橋学」という単元を取り入れ、郷土愛を育んでいます。4月からは、「富山市立義務教育学校水橋学園」が開校します。子どもたちには、79年の歴史と「好きです 水橋中学校」の思いを胸に、ふるさとに愛着と誇りをもって、新しい仲間と新たな歴史を刻んでほしいと願っています。

富山市立三成中学校



伝統を受け継ぎ、新しい時代を築く

本校は、昭和22年に中新川郡学校組合立上条中学校として創立以降、設置主体の変更、改称を経て、昭和41年に富山市立三成中学校となりました。昭和63年に今の校舎が竣工し、現在に至ります。白岩川が近く、雄大な剣岳の姿と広大な水田地帯の風景が一望できる素晴らしい環境の中で、生徒は素直にのびのびと育っています。

生徒たちが大人数の前に堂々と出られるようにと願って「三成太鼓」が伝統として受け継がれており、学校行事や地域イベントでも披露しています。毎日の国旗・校旗の掲揚、VAS活動(ボランティア活動)など、生徒会が先輩方から引き継いで行っている活動に加え、全学年入り混じって楽しむ全校レクリエーションにも取り組みはじめました。

令和8年度から、水橋地区6小・中学校が統合して、富山市立義務教育学校水橋学園として開校します。生徒たちが新しい仲間と共に、新しい学校、新しい時代を築いていくことを期待しています。

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「富山市立大広田小学校」へ

富山市立浜黒崎小学校



地域とともに歩んだ152年

本校は、明治6年、浜黒崎の地に「黒崎学校」として開校しました。以来、校名の変更、校舎の新築や改築等、幾多の変遷を経て現在に至ります。長い年月、時代の変化に応じた教育活動を行ってきました。

今年度は、「全力でチャレンジ！自信をもって やさしく元気に輝け はまっ子！」のスローガンのもと、日々の学習や学校行事に取り組んでいます。校区内オリエンテーリングやシーサイド焼き芋等、地域の特色を生かした活動も行っています。振り返ると、登下校の見守り、田植えや稲刈り体験、家庭科ボランティアによる裁縫・ミシンの学習をはじめとして、地域の皆様に支えられ、地域とともに歩んだ152年間でした。

本校は、令和8年度より大広田小学校と統合します。子供たちには、浜黒崎小学校で培った学びや経験を生かしながら、これからもいろいろなことに全力でチャレンジし続け、やさしく元気に輝いてほしいと願っています。

長い歴史に幕・統合 新たに「富山市立古里小学校」へ

富山市立古里小学校



新たな仲間と新たな一歩を

本校は、明治6年7月6日に長沢村光円寺を借りて長沢小学校として誕生し、創立から152年となりました。古里地区は、数々の遺跡や古墳、文化遺産があることから明らかなように、「古くから開けた里」として人々の暮らしが営まれ、また地域の中心としての役割を果たしてきました。子どもたちが歴史や文化を身近に感じられるように、校区内の歴史ある寺院や遺跡からの出土品、地域行事「ふちゅう曲水の宴」等を学習と関連付けながら、ふるさとを大切にすることを育てていきたいと取り組んできました。

4月からは富山市立音川小学校と統合し、音川地区と古里地区を校区とする古里小学校として新たな一歩を踏み出します。これまで両校が大切にしてきた地域とのつながりを受け継ぎ、子どもたちには新たな仲間と互いのよさを発揮しながら、何事にも「やってみよう」と挑戦し、新たな校風を築いてほしいと願っています。

富山市立音川小学校



最高の音川小学校

本校は明治7年、「英文校」「広文校」として誕生し、変遷を経て明治の終わり頃に「音川」を冠した小学校となりました。創立から151年、本校を母校として4000人以上が巣立っています。

今年度は、「最高の音川小学校をつくろう」をテーマとして教育活動を行いました。歴代の音川っ子が学んだ「音川交流センター事業」や読書ボランティア「大きなかぶ」による読み聞かせ。地域の方と共に時間を忘れて楽しみました。新しいアイディアを音川っ子が企画し、実現した「音川タイム」や「VSティーチャー」。子供も教職員も夢中になり、楽しい時を過ごしました。全校総合・生活「わたしの音川」では、一年をかけて「自分にとっての音川」について考えを深めました。音川小学校の歴史、引き継がれてきたたくさんの温かい思い。そのすべてを受け取り、子供主催の閉校式「感謝の集い」に臨みます。

本校にかかわったすべての人々の心に、音川小学校が「最高の学校」としていつまでも輝き続けることを願っています。

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに義務教育学校「南砺市立五箇山学舎」へ

南砺市立上平小学校



五箇山の学び 未来へ

平成26年4月、旧上平小学校と平小学校が統合し、上平小学校が開校しました。平成28年に富山県建築賞を受賞した、木材や和紙をふんだんに利用した2階建ての学び舎で、上平っ子は12年間の歩みを重ねてきました。

本校は、世界文化遺産「相倉・菅沼五箇山の合掌造り集落」を校区にもち、令和7年にはユネスコスクールに認定されています。厳しい自然に寄り添いながら、雪道を越えてバスを通った日々は、学ぶことの喜びと、人と人を思いやる心を育んできました。そして、「こきりこ」「麦屋節」等の郷土に伝わる民謡を歌い踊り継ぐ営みは、平・上平の地域を、また、世代を超えて地域の心を結び続けてきました。

令和8年4月、平中学校との統合により、義務教育学校「五箇山学舎」として新たな一歩を踏み出します。ここで培われた学びと絆、ふるさとを愛する心を、これからも変わることなく未来の五箇山の礎として、つないでいきます。

南砺市立平中学校



五箇山の人々に愛されながら

本校は、昭和22年4月に平村立平中学校として創立されました。その後、町村合併に伴う校名変更や南砺市立上平中学校との統合、校舎の新築等を経て現在に至ります。大空を舞う鳳のように見える校章は、「合掌造り」と「平」の文字を合わせ、未来へ向かって羽ばたく平中学生をイメージしてデザインされました。

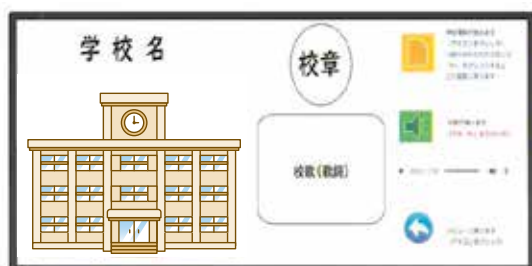
これまで、ふるさとの文化を学ぶ民謡学習や、小中高合同で行う運動会、自然を生かした体験活動を特色として、地域と共にある学校づくりを推進してきました。また、地域の指導者に支えられたスキー部の活動における全国大会での数々の功績は、本校の誇りであると同時に、夢や希望の実現に向かって挑戦し続ける生徒の励みとなっています。

4月からは、上平小学校と統合し、五箇山学舎として新たな歩みを始めます。五箇山の人々に愛されながら、郷土に誇りをもち、心豊かにたくましく学び続けてもらいたいと願っています。

お知らせ 学校情報閲覧コーナー「県内の学校の今」 毎年更新!

近代教育制度開始150周年を迎えた節目（令和5年）に「校歴等、学校情報調査」を実施したところ、県内すべての学校からご協力をいただき、令和6年4月より、子供たちをはじめ、広く県民の皆さんに、2階教育記念室で紹介しています。

現在、令和5年に行った調査時より、さらに学校の統廃合が進んでいます。そこで、毎年、統合校や新設校のご協力をいただき、開校した次の年から紹介しています。



学校情報のアイコン
学校情報が読めます

校歌のアイコン
校歌が聴けます

紹介する内容は、学校名、校舎、校章、校歌、教育目標や校歴等の学校情報です。
著作権を考慮し、当館内のPCの画面上のみでの検索・視聴とします。
なお、学校情報は冊子でも読むことができます。

「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

令和8年2月9日（月）

※ 詳しい活動の様子は、財団ホームページに各校の実践報告書として掲載されています。

富山市立呉羽小学校

地域から学べる内容等を捉え直して教材化を図り、学年単位での活動と学級単位などの少人数での探究活動を融合させられるカリキュラムの見直しを図りつつ実践を進めた。



梨の交配体験



地元大学生による介護体験教室

富山市立池多小学校

地域でのフィールドワークを中心に探究活動を重視し、体験活動や見学等、ホンモノに触れる機会を設定して実践を進めた。



見つけた「すてき」を地域のお店で発表



地域で改良したゲームで交流する

高岡市立博労小学校

「人」と関わることで、地域課題に子供たちが気づき、その解決に向けて主体的・協働的に取り組める活動を推進した。



ばくろう思い出館でのふるさと学習



防災士による水辺の安全教室

氷見市立湖南小学校

ふるさとの豊かさや有り難さを享受するだけでなく、「湖南の宝」を守り、広める活動の推進を図りながら学習活動を行った。



仏生寺川上流での調査活動



竹を伐採し、運ぶ

氷見市立灘浦小学校

地域密着型小規模校の強みを生かした体験活動を充実させ、地域の魅力を広め伝える活動を推進し、「学びフェスタ」を開催した。



長坂棚田米はさがけ

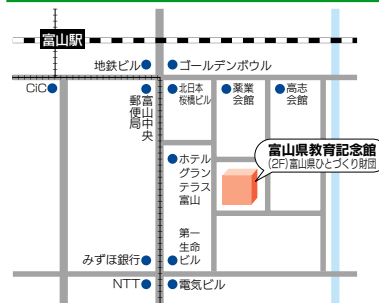


「灘浦うまいもんひろめ隊」広報活動

あとがき

今年度は多くの学校が閉校を迎えます。伝統あるそれぞれの学校から「わが校の歴史から」に思い出、感謝、未来の幸せを願うメッセージが寄せられました。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。



令和8年度の展示計画

- ◆企画展 郷土の先賢展「寿司といえば、富山」の13人
- ◆第24回「さんすうワールド展」
- ◆第19回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」
- ◆第23回「子どもの目、自然不思議発見写真展」
- ◆第40回「富山県教職員厚生会退職厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第17回「児童・生徒によるものづくり展」
- ◆第57回「富山県造形教育作品展」
- ◆第22回「アイデアロボット展」
- ◆第37回「富山県中学校美術展」

4月16日(木)～7月5日(日)
7月8日(水)～10月11日(日)
7月10日(金)～8月16日(日)
8月29日(土)～9月30日(水)
10月4日(日)～10月10日(土)
10月16日(金)～11月8日(日)
11月14日(土)～11月29日(日)
12月5日(土)～1月10日(日)
1月15日(金)～2月7日(日)

富山駅
近く



会議室を一般の方に安価でお貸しして、打合せや趣味の活動などにご利用いただいております。詳しくは教育記念館ホームページをご覧ください。

<https://www.t-hito.or.jp/reserve/index.html>

会議室をご利用ください！

公式X(旧Twitter)

https://x.com/t_hitozukuri

財団の取組みや富山県教育記念館の展示情報を掲載しています。ぜひ、フォローをお願いします。



教育記念館HP

<https://www.t-hito.or.jp/>

「教育」がテーマの博物館です。展示情報や郷土の先賢者などを随時更新して、紹介しています。

